稲　穂

豊崎小学校　校長室通信
令和5年　3月　2日
第12号　文責　久保　亨

悔いのない人生とは？

あっという間に、6年生の皆さんはもうすぐ卒業する季節となりました。先日行われた6年生を送る会では、6年生の皆さんに、「残り少ない小学校生活を悔いのないように過ごしてください。」というお話をしたのですが、「悔いのない人生」とは反対の人生を歩んで来られた方のお話が、ある雑誌に載っていました。カウンセラーの方の体験談です。以下に抜粋します。

あるクライアントさんは教育熱心な家庭に生まれ、子どものころから塾に習い事に忙しく過ごしてきました。遊びたくてもそんな時間はありません。

そのおかげで医師という職業につくことができたのですが、30代に入ってしばらくしたころ、ふと彼の頭の中にある疑問がよぎりました。「自分は本当に医者をやりたいのだろうか？」

思えば、親の敷いたレールの上を歩き続け、見事に成功したのですが、彼は自分の人生を自分で選んだことがなかったのです。

彼がそのとき自分を見つめ直そうとしたところ、子どものころからずっと我慢して親の期待にこたえ続けてきたことを思い出します。アニメが好きだったけど一切見せてもらえなかったこと、近所の友達と遊んでいたら家に呼び戻されて勉強させられたこと、友達がゲームの話題で盛り上がっているときにその話に入れなくて、悔しく寂しい思いをしたこと。

するとすっかり忘れていた出来事が次々と思い出され、本当に怒りが止まらなくなりました。いわば三十数年間ため込んできた怒りが爆発したようなものです。そして、「こんな仕事、したくてしてるんじゃない！」と思うようになったのです。（「感情をためこまない　根本裕幸」より　傍点:久保　）

高学歴・高収入で人から尊敬される職業についているのに、こんな思いをもっている人がいる…。幸せな人生とは何か、教師として、親として、考えさせられました。

子どもは親の附属物・所有物ではありません。全く別個の人格をもった、独立した存在です。ただ、分かってはいても、私もこの方の親と同様にわが子を指導し、ときには規制してしまうことがありました。

私はもう自分の子育ては終わってしまいましたが、幸いなことに子どもを育てる職業に従事しています。これまでの反省を生かし、子どもたちが「自分の人生は自分で決める」ためのお手伝いをしていければと思っています。

保護者の皆様は、これからまだまだ（と言っても、実はあっという間なのですが）子育てが続きます。子どもたちが将来、後悔してしまうことがないよう、お子さんと常に対話しながら、「自分で決めた！」と思える人生になるよう見守り、導いてくだされば と思います。